

平成30年度 日本大学文理学部個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 英文学科・助手

申請者氏名 桶田 由衣

研究課題		John Milton (1608-74) 作の仮面劇 <i>A Mask</i> (1634) に関する総合的研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究は、John Milton(1608-74)作の仮面劇 <i>A Mask</i> (1634)における女性登場人物 the Lady と特に Sabrina に焦点を当て、Milton が如何に信仰心を備えた有徳の女性を重視していたかを明らかにすることを目的とする。 <i>A Mask</i> は、他の Milton の作品と比較しても、版や草稿の多さが顕著である。本研究においては、主に次の四つの版、Trinity Manuscript、Bridgewater Manuscript、Milton の名が伏せられて出版された 1637 年版の <i>A Masque</i> 、そして Milton が 1645 年に出版した自身初の詩集に収録された <i>A Mask</i> に着目する。本研究においては、主に the Lady と Sabrina に関する記述を比較する。時を経るにつれて the Lady と Sabrina に関する記述がどのような変遷を経たのか、あるいは記述を変えることなく、一貫した内容を Milton が書き続けたのかについて着目し、Milton が二人をどのような女性として描こうとしていたのかを検証する。本研究によって、17 世紀当時男性同士の連帯とは異なり、あまり多く描くことのなかった有徳な女性たちによる、女性同士の連帯を、男性作家である Milton が描いたという従来の研究であまり焦点の当てられなかった研究内容を明らかにすることが期待される。
	研究の結果	当初の研究計画において、 <i>A Mask</i> の四つの版の比較を行う予定であったが、そのすべての比較を年度内に終えることができなかった。また、これまでに行った調査の中で、Sabrina と the Lady に関する記述を比較したが、Milton の意図を論文にまとめるまでの内容に至らなかった。さらにはもう一つ別の版の比較も行う必要が生じ、論文や研究発表の形に結実するに至らなかった。さらに一年あるいは長期的に本研究を続けていきたい。また、本研究を進めるに当たり、 <i>Oxford English Dictionary</i> を用いて研究する機会が多々生じた。それゆえ、本研究に必要と思われる <i>Oxford English Dictionary</i> に引用された <i>A Mask</i> の引用例を収集したデータベースを先に作成する必要が生じ、現在制作中である。
	研究の考察・反省	上記に述べたとおり、本研究を論文ないしは研究発表として結実しなかったことが最も反省すべき点として挙げられる。また、当初の研究計画とは別資料も比較しなければならなかった点を見抜けず、研究を進めていたことも、研究計画を立てる上での大きな反省である。しかしながら、 <i>Oxford English Dictionary</i> を用いた <i>A Mask</i> に関する語彙研究を新たに進めることができたのは、一つの成果であるといえる。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 の 考察 ・ 反省	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 特になし。 ただし、本研究に必要となる <i>A Mask</i> のデータベースを作成中であり、来年度はそれを元に本研究と <i>A Mask</i> の語彙研究を進めていきたい。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		